

上野丹山、

知られざる偉業

―坂東本『教行信証』の臨写―



木造丹山坐像（浄勝寺蔵）

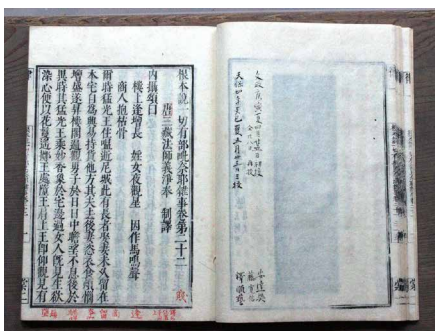
浄 勝寺（丹生郡越前町下糸生）
 第13世住職であった上野順藝（うへのじゅんげい）は「丹山」の雅号で知られる幕末を代表する学僧です。丹山は、当時流布していた『黄檗版一切経』（おうぼくばんいっさいきょう）に誤りが多いことを嘆き、京都建仁寺に所蔵されていた『高麗版大蔵経』と照らし合わせ、經典の本来の姿を追究しました。浄勝寺所蔵『黄檗版一切経』は丹山の筆によって『高麗版大蔵経』の内容が記された貴重な資料で、福井県指定文化財となっています。

この他にも、あまり知られてい

ない丹山の業績があります。坂東本『教行信証』を臨写したことで、『教行信証』は親鸞の著作であり、正式の名を『顕浄土真実教行証文類』といます。「教・行・信・証・真仏土・化身土」の6巻からなり、『無量寿経』における阿弥陀仏の願文を根拠にして、經典や祖師の文章を引用しながら私釈を加えています。東本願寺に所蔵される『教行信証』は親鸞の真筆で、もとは東京上野の坂東報恩寺に伝来したものであることから、とくに「坂東本」と呼ばれ、国宝に指定されています。この坂東本『教行信証』は大正12

（1923）年の関東大震災で被災し、平成15年より本格的に復元事業が開始されました。その際に、かつて丹山が臨写した『教行信証』が底本として重要な役割を果たしたので、臨写本を所蔵する大谷大学図書館には、次のようなエピソードが伝わっています。

「坂東本は」朱の色が褪せて、極めて淡くなっている部分があり、全く見えなくなっている部分もあるのである。ところが、幸いなことに、江戸時代の後期、今から約145年前に、極めて綿密に忠実に坂東本を臨写した本が、大谷大学図書館にある。学内では、早くから、この本を丹山本教行信証と呼んで、非常に大切にしている。（大谷大学図書館「貴重特別図書目録」には「坂東本丹山影写」として出ている。実は私、20数年前、名畑（応順）博士の後を受



校合『黄檗版一切経』（浄勝寺蔵）

けて図書館長に任命せられた時、若し、火災というような時には、第一にこの本を取出さねばならぬと言われたことであつた。」（多屋頼俊「坂東本の朱筆」『増補 親鸞聖人真蹟集成』第2巻 法蔵館）

坂東本『教行信証』の臨写は、浄土真宗の教義を今に伝える重要なものとして、現代の研究者から大きな評価を得ています。

関連史料・ゆかりの地

浄勝寺と一切経蔵



上野山 浄勝寺



一切経蔵

浄勝寺は真宗大谷派に属す寺院です。慶長15（1610）年、本願寺教如から寺号を下付されました。境内背後の丘陵中腹には一切経蔵が建ち、『黄檗版一切経』をはじめ、丹山が収集した典籍や数多くの文化財が納められています。

【住所】上野山浄勝寺：丹生郡越前町下糸生101-1（JR福井駅より京福バス清水グリーンライン線で約1時間下糸生）下車徒歩5分

参考資料等

越前町教育委員会編『丹山 幕末を生きた学僧』、越前町教育委員会編『平成30年度 越前町織田文化歴史館 幕末明治福井150年博 特別展示リーフレット 幕末明治の越前町』多屋頼俊『坂東本の朱筆』『増補 親鸞聖人真蹟集成』第2巻 法蔵館、山田秋甫『浄勝寺丹山』丹山文庫

執筆・協力

越前町織田文化歴史館 学芸員 村上 雅紀